



# ミンガラバー

認定 NPO法人  
日本・ミャンマー  
医療人育成支援協会  
〒700-0815  
岡山市北区野田屋町2-4-18  
TEL: 086-224-0102  
FAX: 086-221-2554  
URL: http://www.mjcp.or.jp

## 私の心に刻まれた ミャンマー風景 7選

協会理事 笠井裕一  
元三重大学教授  
(脊椎外科)

私は、ヤンゴンに日本式病院を建てるという希望を持ち、2019年6月、ミャンマーに移住しましたが、クーデター後の混乱の中、病院が建つ目途が全く立たないため、昨年11月、妻と娘(3歳)と一緒に、日本に戻りました。そして今年1月から、実家の浜松市の近くの愛知県豊川市の病院で働いています。今回は、私の心に刻まれた「ミャンマー風景7選」をお届けします。

### 1 公立病院はガラガラ

クーデターで実権を握った国軍に抗議して職場を放棄する「不服従運動」は続いています。公立(政府系)病院への医師の復帰率が約10%、看護師は5%以下で、病棟はガラガラです。いくつかの私立病院は機能していますが、支払い能力のない患者さんは、なかなか医療を受けられません。



1 ヤンゴン総合病院整形病棟は患者が少ない

### 2 大学がコロナ病院に

完全に閉鎖している大学がコロナ専門病棟として使われています。敷地内には、救

急車が数台とまっております、教室の窓には患者さんの民族衣装ロンジーなどの洗濯物が干してありました。



2 ヤンキン教育学位大学も  
コロナ専門病棟として利用 コンドミニアム群

### 3 建設途中のまま放置

ヤンゴンでは今、ホテルやコンドミニアム、病院など、建設途中のビルがあちこちに多数あり、そのまま放置されています。ミャンマー経済のダメージは著しく、これらの建物が廃墟にならないことを望みます。

### 4 閉店する店舗が続出

コロナと政変によって、ヤンゴンでは店じまいが増えており、シャッター街になりそうな通りもみられます。なるべく早く、復活して欲しい。

### 5 ATMに群がる人々

ミャンマーの全銀行が業務を行っていません。稼働しているATMが数少ないため、どこも人だかり。日本円にして2万円分のお金を下ろすのに、3時間待たなくてはなりません。



4 ダウンタウンのケンタッキーも閉店

### 6 機内は全員、防護服

コロナ感染防止のため飛行機に乗るのに乗客は全員、手術の時のような防護服を着用します。機長からの機内放送で「快適にお過ごしください」と言われても、こんな格好では無理です。乗客はただただ無言でした。



5 ATMの外にも多くの人々が順番待ち

### 7 新居は問題ありすぎ

約2年かけて、ヤンゴンに昨年11月にやっと完成したわが家は日本人の設計で、ミャンマーでは垢抜けた建物です。ところが、駐車場に車が入らない、戸が閉まらない、水道水に砂が混じる、壁にヒビが入る・・・新居にもかかわらず、大きな問題点だらけ。現在、妻の友人がこの新居に住み、補修作業が続いています。もしミャンマーに、当初の計画通り大きな病院を建てていたら、とんでもない大問題が発生していたのではないかと想像しています。



6 ヤンゴンからバンコク行きのミャンマー国際航空の機内

### おわりに

私はヤンゴンに新居を建ててしまいましたので、ミャンマーの政情が安定すれば、再びミャンマーに戻りたいと考えております。そして、小さな自動車を購入します。



7 外観はよいのですが

# MAJA 20年

## 留学経験いかし多彩な活動

会長 ミヨウキン元国立医学研究局長

協会と関わりが深いミャンマー元日本留学生協会(MAJA)の設立20周年記念式が昨年12月10日、ヤングンのホテルで催された。当初49人の会員は現在3200人。ミャンマー各地で医学界をはじめ各分野で活躍している。

MAJA会長のミヨウキン元国立医学研究局長は協会ヤングン代表で、協会活動のミャンマー側窓口になっている。また岡山大学国際同窓会の会長も務めている。

記念式はMAJA歴代役員らのほか丸山市長・駐ミャンマー日本大使や現地駐在のJICA(国際協力機構)、JETRO(貿易振興機構)の関係者らが出席した。

協会の岡田茂理事長も招待されたが、コロナで入国、帰国時に待機しなければならぬために欠席。20周年記念誌にメッセージを寄せた。



出席者の記念撮影。二列目中央が丸山大使、その左がミヨウキン会長＝ヤングンのホテル

私の父は京都大学で学びました。第2次世界大戦の最中のことです。その間に習得した日本語と工業関係の知識により、戦後の1950年代、カヤ州ロイコーに日本が水力発電所を建設した時にミャンマー側の技術担当に指名されました。

父はよく、日本で過ごした頃の生活について話してくれました。話を聞きながら私は日本に興味を持ち、大人になったら自分も日本の生活を体験したいと思うようになりました。

ヤングンの医科大学を卒業後、アメリカとオーストラリアで勉強しましたが、いつか日本の学者と一緒に仕事をしたいと望んでいました。かなえられたのは1999年で、岡山大学で岡田茂教授のもとミャンマーのC型肝炎対策の共同事業を開始。さらに2004年、岡山赤十字血液センターでも研修も受けました。

MAJAは2001年12月に結成され、最初の会員49人はほとんどが第2次大戦中に日本で勉強した人たちです。父もその1人で、彼らは「南方特別留学生」と呼ばれていました。私は06年に理事、17年から会長を務めています。

MAJAの目的は日本留学により得られた経験をいかし、両国間の文化、学術的な関係を強化することです。具体的な活動をあげると、日本へ留学を希望する学生や研究者に対し、文科省奨学金につ

## 知識への投資が一番多くの利子を産む

いて周知をはかり、受給者候補を日本大使館へ推薦します。日本国際協力基金と協力しながら日本語能力検定試験を実施、また日本語生交換機構に協力して日本留学試験にも関わっています。

岡山大学が中心に進めている「文科省ミャンマー留学コーディネート」配置事業」の組織作りを支援し、私自身、岡山大学国際同窓会長もしています。

協会とのつながりはとくに強く、その中で、特筆すべきは「MAJA・岡山情報センター」です。協会の支援で13年に設置され、ここでは日本語やコンピューターの授業が行われています。日本語に関するビデオ、CDや1千冊以上の参考書がこれまでに協会から提供されました。

「知識への投資が一番多くの利子を産む」。これは私たちが掲げる活動の標語です。

MAJAは新しい会館を計画しています。事務所は結成からずっとビルに間借りしていましたが、19年に念願の自前のビルを建設。それが活動範囲の広がりに伴って手狭になったためです。

土地は寄付で、建物は寄付の額によって3階か4階建てになります。会議室を2か所設け、日本語検定試験や文化行事などにあてます。日本語の本を集めた図書室も設ける予定です。工事はコロナ規制などの影響で遅れています。



ヨウコウザクラ  
いつ咲かな

「勢いよく若木に育っています」と、ミャンマー山岳地帯の小学校からヨウコウザクラ(陽光桜)の写真がこのほど協会に届いた。協会の呼びかけに応じ、東京のNPO「地球元

愛媛県の元教員が戦死した

教え子たちを慰霊するため作り出した交雑種のサクラで、平和の願いが込められている。子どもたちは水やりを欠かさず、濃いピンクの花がいつ咲くか、待ちわびているという。

岡山大学大学院で歯学博士号を取得したミャンマーのチョートウアウンさんは岡山ミャンマー留学生会のリーダーも務め、昨年10月に帰国。これは協会に寄せられた礼状です。

## 奨学金、宿舍提供 おかげで歯学博士に

### 留学生から礼状



チョートウアウンさん

私は岡山に5年いました。私費での留学だったのですが、物価が高い日本での学生生活は結構きびしかったです。指導教授の窪木拓男先生の勧めで奨学金を申請。2018、19年に大塚奨学金、20年に三菱奨学金を頂き、おかげで研究に集中することができました。

窪木教授の研究室では幹細胞や再生医療、歯科移植

学、口腔顔面疼痛などの先進的な研究が進められており、私自身、そんな環境で学んだことを学会で発表しました。岡山で開かれた国際学会ではベストポスター賞を受けました。

実地の歯科診療も体験しました。日本にやってきた

### 編集後記

医学部教授を早期退職し、ミャンマーに病院をつくるため奔走していた笠井理事。「第二の人生」の挑戦はクーデターによる政情混乱のなか、中断せざるを得ませんでした。胸中の無念さが察せられます▼一家三人が無事に、ひとまず帰国と聞き、身の上を案じていた当方もひと安心です。でも、かの地からの笠井通信は途絶えます。事態を冷静に捉えた報告ただけに、もう読めないのが残念です。(西崎)